

# 「水辺の楽校」へ学生参加のご協力頂いた大学のご紹介

大学名 日本大学文理学部 杉森ゼミ

参加形態／人数 杉森ゼミの学生が水辺の楽校へ参加申し込み／2人

参加日程／現場 平成25年8月8日／府中水辺の楽校

## ○大学の視点

日本大学文理学部 准教授 杉森 知也

このゼミでは、8年ほど前から学校支援ボランティアの事務局を学生の手で運営しています。これは、自らがボランティアをするだけでなく、学内のいわば「人材バンク」を運営しながら学校と関わっていくという第三者的な視点をもたせることを意図してはじめた活動です。このほかにも、ゼミとして学校関係者評価に携わり、世田谷区内の中学校の生徒・保護者・教員・地域について、様々な角度から冷静に分析する力も育んできました。

教員を志望する学生にとって、「参加と分析」を往還することは、教員になってからの成長に大きく寄与すると考えています。参加の面でいえば、学校からの依頼の中心は授業補助や補習授業、部活動の指導などが中心となりますが、学校行事の補助をお願いされることも多くあります。本来であれば、こうした行事の準備段階から関わることができれば、学生にとって貴重な経験となりますが、受け入れられることは極めて稀です。「水辺の楽校」は、学校の行事または総合的な学習の時間を利用されることが多く、普段の授業とは違った子どもたちとの関わりを体験することができるほか、学生自身も自然体験の機会が少なくなっている現状を鑑みれば、こうした活動へのボランティア参加は、メリットが大きいと考えています。

本年度は、試行段階ということで、まずはボランティアとして参加してみることから始め、今後は、学校と直接的に関係を持ち、授業の企画・立案・準備・実施・報告といった一連のサイクルに関わることができればと考えています。



## ○参加学生の感想

教育学科3年 萩谷安李 社会教育関係志望

今回、私は「府中水辺の楽校 多摩川源流体験教室」にはじめて参加しました。子どもたちと、沢歩きやカレー作り、キャンプファイヤー、川遊び(マスつかみ)をしました。カレー作りやキャンプファイヤーは今まで経験したことがありましたが、沢歩きや川遊びははじめての体験で、とても印象に残っています。特に、沢歩きは私が想像していた以上にハードなもので、直接水の冷たさを感じながら川の中を歩いたり、急な斜面を上り下りしたり、足元が不安定な場所を歩いたりと普段の生活ではなかなか体験できないものばかりでしたし、子どもたちの自然への順応性の高さを感じることができました。

いきいきと目を輝かせて参加している子どもたちを目の当たりにし、自然体験が子どもたちにとって、とても貴重なものであると実感しました。同時に、そのためにも大人が自然体験をしておくことと、安全(危険)について知っておくことが大切だと気づきました。

多摩川源流体験教室は、自然の力を十分感じることができる体験であり、子どもたちが一所懸命挑戦している姿から、子どもたちの無限の可能性を感じることができた体験でした。

今後は、ゼミがこうした企画・運営に携わったり、学校と協力して年間計画を立てたりといったマネジメントにも関わっていくことができればと思っています。そのために、何が現場で求められているのか、ゼミが果たせる役割は何かを見極めていきたいと思っています。



## <参加大学のご紹介>

### ●この指とまれ☆一日大杉森ゼミ主催学校支援ボランティア

[http://www.geocities.jp/sugizemi\\_v/](http://www.geocities.jp/sugizemi_v/)

「この指とまれ☆」は、日本大学文理学部教育学科杉森ゼミが運営する、学校支援ボランティアの手配をおこなう事務局です。大学周辺の学校を中心に、学生のボランティアを派遣しています。世田谷区教育委員会からの依頼が中心ですが、学校や個人からの直接の依頼も受け付けています。ボランティアを募集したい学校関係者の方は、ホームページの「依頼フォーム」から必要事項を入力いただければ、登録している学生に告知することができます。

### ●日本大学文理学部ホームページより

[http://www.chs.nihon-u.ac.jp/social\\_contribution/volunteer01/](http://www.chs.nihon-u.ac.jp/social_contribution/volunteer01/)

## 教職ボランティア

現在、教員志望者に、学校等においてボランティア活動をおこなっていることが求められています。それは、年間を通して教師の職務や児童・生徒の様子を見ていることが、将来、教員となった時に生きると思われているからです。

しかし、私たちは、単に教員としてすぐに役立つ力を育成しようとしているわけではありません。大学では主に理論を勉強しますが、得られた理論と学校現場での実践とを往還させることが学生の成長にとってより有益になると考えているからです。

そこで、世田谷区教育委員会の協力を得ながら文理学部の学生と大学院生に、世田谷区や杉並区など大学の近隣の小・中・高等学校等での学校支援ボランティアの派遣仲介をおこなっています。現在、300名を超える学生がこれに参加をしています。また、派遣仲介をおこなう事務局は、文理学部の学生がゼミ活動の一環として運営しており、こうした取り組みは、全国の大学でも極めて珍しいものとなっています。

